



CVS(コンビニエンスストア)各社が惣菜やサラダなどのサイドメニューで、低価格商品の開発を加速させている。ローソンが4月14日から105円均一の惣菜シリーズを発売したのに続き、ミニストップも5月12日から同じく105円均一の惣菜シリーズを発売する。サークルKサンクスはサラダを全面リニューアルし、低価格ラインの商品を拡充する。CVS各社では弁当の売り上げが伸び悩んでいる一方、おにぎりやパンなどは好調で、主食との組み合わせ購入を促せる商品強化することで、客単価のアップと新たな顧客の開拓を目指している。

ローソンの新副社長は、09年2月期決算の会見

CVS各社

低価格サイドメニュー開発

組み合わせ購入で客単価アップへ

高齢者に対応した商品を作る。ローソンは4月14日から105円均一の惣菜シリーズを展開する。サークルKサンクスはサラダを全面リニューアルし、低価格ラインの商品を拡充する。CVS各社では弁当の売り上げが伸び悩んでいる一方、おにぎりやパンなどは好調で、主食との組み合わせ購入を促せる商品強化することで、客単価のアップと新たな顧客の開拓を目指している。

「5種野菜のミックスサラダ」は野菜の量を従来よりも増やして売価を148円に抑え、弁当やパスタとの組み合わせ購入を想定する。サークルKサンクスは5月12日に生野菜サラダを全面リニューアルする。従来のミニストップは5月12日から105円均一の「彩り」00円が主流で、朝晩感があ

「5種野菜のミックスサラダ」は野菜の量を従来よりも増やして売価を148円に抑え、弁当やパスタとの組み合わせ購入を想定する。サークルKサンクスは5月12日に生野菜サラダを全面リニューアルする。従来のミニストップは5月12日から105円均一の「彩り」00円が主流で、朝晩感があ

ピアゴは価格戦略

アピタは差別化戦略で

二社長
前村

ユニーの前村社長は、4月16日、名古屋市内で行われた取引先で構成するユニークグループの総会で、

今後はローコスト運営の徹底による価格戦略の強化を進める考えを示した。また、「ユニー誕生40周年」として創業100周年を迎える2011年以降に、中国に進出する考えも明らかにした。

小売・流通

同社は「ユニー」ユニーストア・ユニースコアなど、中小小売店の店名を全期から「アピタ」に統一した。アピタは日常生活便利店としてスタートした。品揃え・価格・サービス・価格すべてを見直し、経費を再点検し、ローコストに磨きをかける。前村社長は、一方

食品卸の尾家産業は4月6日、大阪市北区にギャップ・シユ&キャリー業態の「サンプラザ」本店を移転オープンした。写真・業務用ユーザーに加え、一般客の集客を重視し、従来から取

C&Cの「サンプラザ」本店移転オープン 一般客重視で生鮮品導入

尾家産業

り扱うドライ食品や冷蔵食品は、地元産品を積極的に生鮮品を不可欠(生鮮野菜、生肉、魚介類など)と成功している。布



「店舗概要」所在地：大阪府大阪市東淀川区。営業時間：10時～20時。定休日：1月1日、3月3日。従業員数：社員2人、パート社員10人。

この人の出番

124

「変化をしないことは後退を意味する。変化を恐れるな。食肉に対する消費者のニーズが刻々と変化しているなか、この言葉を信念に、過去の成功事例や固執観念に拘わらず、社長自ら

た。前社長時代からの家族的な社内風土と常に会社を発展させていくバイタリティーを受け継ぎつつ、メン

少子高齢化などの影響で国内の食肉需要の大きな伸びが見込まれないなか、食肉卸売業の競争は激化している。中小の業者同士が取引先や仕事を分け合いなが

ら共存共栄していくことは難しい。新たな事業に挑戦するにあたっては、体力・柔軟性に物事を考えられる体制を持った企業でなければならぬ。生き残るためには、M&Aも視野に、業界内でも一定の規模を持つ必要を強調する。

食肉卸売業の在り方ももうだ。生産と消費の中核的価値の豚肉、鶏肉に流れ、単価

肉だと思ってしまう。私もまた、その通りだと思つたが、当時はおいしさというものを測定し、評価する基準が確立されていなかった。そして近年、測定技術機器の発達もあり、一部の産地では牛肉の脂肪の滑らかさや口溶け、風味に大きく関係するオレイン酸の含有



ミートコンパニオン代表取締役社長 阿部昌史氏

「プロフィール」あべ・昌史(55歳)東京都生まれ。89年駒澤大学経済学部卒業。91年ミートコンパニオン入社。99年日本カルフール代表取締役社長就任。01年東食ミートセブン代表取締役社長就任。06年アグリ・ワン代表取締役副社長就任。

農家と消費者の橋渡し担う

な立場にあるからこそ、農家が作った付加価値のある

安心という価値を与えたのはよいが、ではその肉がおいしいのか、他の肉と比べて何が違うのか」といったところまで消費者の

率を「おいしさ」の判断基準として認定していく動きが始まっている。将来的には、自社の農場で処理した牛肉の評価ののちに導入したいと考えて、消費者が求めているおいしさの価値を提示していきたい。生産者もおいしいと評価された牛肉が高値で売れることで、より生産意欲が高まるだろう」と期待する。(宇橋)

川西市初出店 EDLPと個食対応 「関西スーパー川西店」



関西スーパーマーケットは4月10日、兵庫県川西市にS.M(食品スーパー)「関西スーパー川西店」を開店した。同店は川西市初出店で、足元商圏に競合店がほとんどないエリアポテンシャルを有する。地盤の兵庫県伊丹市に隣接する池田市川西市